

地盤工学会関東支部
 液状化に係わる被害のメカニズムと名称を考える委員会
 2022年度 第10回委員会 議事録

【開催日時, 場所, 出席】

日時	2022年6月9日(木) 14:00~16:30				形式	Zoom ミーティング		
委員長	吉田 望	○	幹事	石川 敬祐	○	幹事	平松 登史樹	○
顧問	石原 研而	×		沢津橋 雅裕	○		菊本 統	×
	加藤 一紀	○		安達 夏紀	○		原田 健二	○
	石川 明	○		清田 隆	△		飛田 善雄	×
	笹岡 里衣	○		三上 武子	×		澤田 純男	×
	大矢 陽介	○		安田 進	○		加藤 謙吾	○
オブザーバー	青柳 悠大	×						

【配布資料】

資料 2022-10-1 : 2022年度第10回委員会 議事次第

資料 2022-10-2 : 2021年度第9回委員会 議事録

資料 2022-10-3 : 【話題提供】原田委員

資料 2022-10-4 : 委員会報告まとめ案

【議事内容】

1. 前回議事録の確認

前回議事録が承認された。

2. 話題提供の主な質疑・コメント

<原田委員>

- ・ (石狩新港加振実験) 発破前の N 値が工事車両による締固めを受けている可能性がある。
- ・ 噴砂によるもの以外で地震後の N 値が低下したものはどのような理由か？ 室内試験では噴砂はなく、履歴により強度は低下する。液状化強度には N 値では計れない要素がある
地震後に N 値が上がった≠液状化強度が上がった
- ・ (P.17) 平均 N 値は下がっているが、前後のデータでバラツキの差が大きい。
→同地点といっても幅があるので精度の問題を含んでいる可能性がある。
- ・ (P.28) 発破による締固め効果がない、低かった地盤は細粒分含有率が多かった (Fc=20%~)。
逆に礫分が多い地盤では効果が高かった。
液状化後の N 値の変化にも粒度分布による影響があるかもしれない。

3. 委員会報告まとめ案

- ・液状化の定義
- ・液状化発生のメカニズム
- ・歴史的経緯
- ・液状化に誘発される現象
(・流動の使われ方)

<まとめ案に関する議論>

○液状化の定義

- ・複数の定義
- ・短い説明との関連性
- ・静的なものを含めるか？
- ・典型的な例をまず示す

○発生メカニズム

- ・静的（単調載荷）：荷重、水圧の変化が単調の意味
- ・水が噴き出し≠液状化

○要素としての挙動

- ・初期液状化～流体 ⇒ 「初期液状化後の挙動」？

○地盤としての挙動

- ・地震中の挙動
- ・盛土の安定計算：“液状化を考慮した”安定計算で考慮する過剰間隙水圧比は？ 0.2 と 0.9 はどう違うのか

○液状化による被害

- ・分担執筆を依頼・・・幹部で割り振り検討

○定義して使う用語

- ・例として一覧で挙げ、その都度定義することを促す

4. その他

・委員会資料の共有サイト

<https://mypocket.ntt.com/mypocket/login/>

ID: JGS_Liquefaction Pass: 2019ekijouka

5. 次回開催日の決定

7月末～8月上旬予定